

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4571700717		
法人名	社会福祉法人あさぎり福祉会		
事業所名	グループホーム朝霧2号館	ユニット名	さくら
所在地	都城市高城町大井手1049番地		
自己評価作成日	令和6年10月14日	評価結果市町村受理日	令和7年1月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action=kouhyou_pref_topiigvosyo_index=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	令和6年11月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・園庭に季節の果物(柿・柚子・グミ等)がなり、その都度、利用者と一緒に収穫している。 ・ホーム横の畑に地域の人々が、その季節の花を植えられ満開時は、園庭散歩を行い見学している。 また、園庭から晴れた日は霧島が綺麗に見える為、利用者と一緒に見学している。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

家庭的な雰囲気や職員との馴染みの関係の中で居心地のよさを重視し、穏やかに安心して、かつ、その人らしく生活できるように援助している。全職員が最良のケアを提供できるよう、いい人間関係を保ちチームワークを発揮して、法人全体や家族の協力も得られているグループホームである。また、認知症専門の職員によるケアの質の向上のために研修、技術の研鑽を行い、就業環境の整備にも努めている。利用者と共に職員が趣味、家事などを一緒に行うことで、自分も周りから必要とされ愛されているという実感が出て認知症状が和らぎ効果を上げている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項目	自己評価	さくら	外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に なげている	事業所独自の理念を作り食堂の見やすい場所に掲 示して全職員で共有している。	「認知症が安定し、穏やかに安心して暮らせるよう に援助し、心豊かに」をモットーに理念を全職員で 見直し共有し、利用者が安心して暮らせるように様 々な工夫をしながらその実現に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の 一員として日常的に交流している	地域の福祉課・消防・民生委員等とのつながりを持 ち随時交流を図っている。コロナ禍で制限はあるもの のコロナ5類移行後はボランティア・家族・地域の方 との交流も増えつつある。	面会の再開などの一部家族の来訪を受け入れるな ど、様々な工夫をしながら地域との交流を図ってい る。本年度の文化祭に利用者と一緒に作成した作 品を出品している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の 理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしてい る	運営推進会議等で事例を元に支援内容等を伝え理 解を深めている。また相談を受けた際には経験を 活かした支援方法について説明を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価へ の取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そ こでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ5類移行後は対面での会議を開催しており、利 用者状況やサービス内容等を報告し意見を頂く事 で今後の支援に活かしている。	家族や地域住民、行政など多面的な参加のもと会 議を開催している。利用者に対するケアや感染対 策、災害対策など出された意見をグループホームの 運営に積極的に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実 情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協 力関係を築くように取り組んでいる	地域の福祉課との連絡を随時行い、事業所の現状 や取り組みについてお伝えし協力関係を築いてい る。また地域の消防署に災害時の対応等の相談を 随時行っている。	運営推進会議への参加をはじめ、常にグループ ホームの実情(現状報告、災害対策など)やケアの 取り組みを伝え、相談、助言を貰える協力関係がで きている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁 止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄 関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んで いる	身体拘束の研修を定期的に行っており、職員同士で 声を掛け合い再確認に努め、目配り出来る環境を実 践している。身体拘束は行っていない。	定期的に身体拘束の研修会を重ね、再確認を行っ ている。身体拘束の内容とその弊害をしっかりと認 識し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。特に プライバシーを損ねないように留意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学 ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見 過されることがないように注意を払い、防止に努めて いる	虐待防止の研修を定期的に行い再確認に努めてい る。声掛けや対応で気なことがあれば職員同士で 話し合い改善に努めている。地域の方にも研修を通 して自宅に持ち帰り、家族間でも考える機会を提供 している。		

自己	外部	項 目	自己評価	さくら	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を利用している利用者は現在はおられない。制度利用の相談の際に全職員が説明できるよう研修を行い理解する必要がある。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退所時は管理者が窓口となり説明を行い、家族の理解を頂いた上で契約して頂いている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議・書面・面会等でご家族から意見や要望等を伺い、運営に反映させている。		訪問、病院受診、運営推進会議時に聞いた家族の意見を検討し、その都度説明報告を行っている。地域活動への参加や墓参り、面会の再開で、一部家族の来訪を受け入れるなど積極的に運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時管理者に意見・要望・提案等について相談を行っている。また年に1回職員調書で施設長に要望を伝える取り組みがある。		定期的開催する諸会議でグループホーム運営に関する意見交換を積極的に行い、常に管理者と連携が図られている。代表者は、年に1回職員意向調査を行い面談も行っている。救急搬送時の救急カルテの必要性を提案し実現している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務年数による昇給や人事考課制度により職員個人の実績が反映される取り組みがある。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	対外的な研修に参加しスキルアップを促す機会がある。また食材発注や金銭出納といった業務を通して介護以外の仕事にも携わっている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や行事を通して同業者との交流を図る機会があるが、コロナ禍以降は関りは少なくなっている。			

自己 外部	項目	自己評価	さくら	外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者や施設ケアマネージャーが相談窓口となり、本人が安心されるようなサービスの提案を行っている。また家族や担当ケアマネージャー等からの情報をもとに信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者や施設ケアマネージャーが相談窓口となり、ご家族の不安や要望を把握しながら信頼関係構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者や施設ケアマネージャーが相談窓口となり異業種や医療との連携を図りながら、本人に合ったその時に必要なサービスを見極め紹介等を行う場合がある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の能力を把握しケアプランの作成を行い、共同生活を通して本人の能力を活かせるような取り組みを行っている。また利用者同士の良好な関係づくりを支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や電話連絡の際に近況報告を行い、家族が支援できることをお伝えし協力を頂いている。受診の際に協力して頂いているご家族もおられる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけ医・店舗・美容院・娯楽施設等、希望に応じこれまで通りの関係が保てるよう可能な範囲で支援に努めている。	職員と一緒にグループホーム周りの散歩中、農家の方と挨拶し近隣との関係性の継続を図り、また、行きつけの美容室に行ったり、家族と墓参りや自宅に行くなど、これまでの繋がりを可能な限り支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間で気の合う方同士が気持ちよく過ごせる関係づくりを支援している。また交流が得意でない方が孤立しないよう職員がこまめに働きかけ支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	さくら	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も随時相談を受けたり近況報告を行いながら、必要に応じて今後のサービス提供に向けた情報提供や助言を行っている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いに配慮し把握に努め、ケアプラン作成に活かしている。思いの把握が難しい場合は生活歴や性格を考慮し、本人本位なサービスを提供できるよう検討している。		日常の関わりで本人、家族の意向を把握し家族的な環境の中、信頼関係を構築しながら暮らしに関する情報を収集して本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所される際には家族・ケアマネージャー・施設等からの情報をもとに、生活歴やなじみの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間を通して観察と記録を行い、本人の心身の状態や能力について把握できるよう取り組んでいる。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人のニーズの把握に努め、家族や関係者からの情報を取り入れながら検討し、ケアプランの作成に活かしている。		介護支援専門員や担当職員が中心となり、関係者や家族、担当職員の意見や要望を共有しながら現状に応じたモニタリングや介護計画の作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を24時間の記録や日誌をもとに把握し、本人の状態や新しい気づきを申し送り等で共有しながら、実践や介護計画の見直しに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態や状況に変化があれば家族を交えて今後のケアについて随時検討を行い、その時必要な柔軟な支援に努めている。また本人の状態に応じてエアマットや車椅子等の使用の検討を随時行っている。			

自己	外部	項 目	自己評価	さくら	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の交流施設で花見を楽しんで頂いたり、定期的に訪問美容師による散髪を実施している。またかかりつけ医の受診や施設周辺のドライブを実施しており、地元のボランティアの受け入れも随時行っている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との関係は可能な限り継続して利用できるように支援しており、本人の状況や状態に応じて適切な医療機関の受診を支援している。		かかりつけ医への継続を支援している。家族の協力で受診したり、地域の病院とは常日頃より情報の共有に努め協力関係にあり、適切に医療が受けられる体制が整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	地域の訪問看護を利用しており、週に一回健康管理指導を受けた際に日頃の様子や気になることを相談し適切な対応が取れるよう指示を仰いでいる。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域の病院と協力関係にあり、日頃より情報の共有に努めている。緊急時や入院の際にはサマリーをもとに情報交換を行い、その後も早期退院に向けて連絡を行っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の状態に応じて家族や主治医と終末期に向けた方針について相談する機会を持ち、ホームで出来る事を明確にし家族の理解を得た上で看取り介護を実施している。		看取りに関する指針を家族に説明し、重度化した際の方針について書面で同意を得ている。看取りの研修も行い、状況に応じて家族の意向を確認し、医療、看護と連携して本人、家族と話し合い、家族の協力のもと終末期の支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的にAED・感染症・事故・食中毒・看取り介護等の研修を行い、緊急時に対する実践力の向上に努めている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月防災訓練を計画し定期的に避難訓練や通報訓練を実施している。また地域の消防署や防災担当と連携を図り、随時指導を受けている。		火災、大規模地震、台風、集中豪雨、新型感染症などの不測の事態に備えた防災マニュアルを作成し設置してある。母体法人や地域の協力体制構築にも努め、毎月防災訓練を実施している。運営会議参加者に訓練を見学してもらい意見を貰っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	さくら	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し誇りやプライバシーを損ねないよう配慮しているが、声掛けや対応の際に感情的な態度になってしまう事がある為、職員同士で声を掛け合い改善に努めている。	住み慣れた地域の言葉で会話を行うことがあるが常に人格を重んじたケアに心がけ、年1回、接遇や言葉遣いに関する研修を実施している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思に配慮し自己決定できるような声掛けや場面を工夫したり助言を行っている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理強いせず本人のペースを尊重し、伝達が難しい場合は表情や様子、ジェスチャー等を行いながら、本人の希望にそえるよう支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みの服装や髪型にできるよう支援している。また随時身だしなみや髭剃り等の介助を行っている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	できる方には食器洗い・台拭き・下膳等を手伝って頂いている。感染症予防の観点から、食事作りは職員が行っている。	食いたいメニューや利用者の嗜好を反映した食事の提供をしている。自立支援のため可能な限り、食事一連の作業の参画を大切に、職員も一緒に楽しんで食事を共にしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表をもとに食事・水分摂取量の把握に努めている。また嚥下状態に応じて食事形態の見直しを随時行っている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後本人の状態に応じた口腔ケアを行っている。義歯の方は夕食後に預かり消毒を行っている。口腔ケア時には口腔内の観察を行い状態把握に努めている。			

自己	外部	項 目	自己評価	さくら	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表や記録をもとに一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導やオムツ確認を行っている。本人の能力に応じてポータブルトイレを居室に設置し自立支援を行っている。		排泄パターンの把握に努め、声掛け誘導を行い、自立を促している。紙パンツ、パット等も本人の状況に合わせて検討している。状態に応じてポータブルトイレを居室に設置している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	チェック表を活用し排泄の把握に努め、便秘傾向であれば指示薬を服用して頂いたり、食事・水分・運動等の検討を行いながら予防に取り組んでいる。また随時訪問看護に相談し支持を仰いでいる。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は火・木・土、週3回実施しており、希望があれば随時シャワー浴を実施している。状況に応じて時間をずらしての対応も行っている。強く拒否される場合は無理強いせず中止し更衣や清拭にて対応している。		利用者の体調や気分を尊重して、無理強いをしないで希望に合わせた入浴支援をしている。季節感を感じてもらえるように季節湯も楽しめるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のペースで日中も休んで頂いているが、昼夜逆転にならないよう随時対応している。夜間は安眠できるよう照明や室温に配慮している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬に変更があれば申し送り、説明書をもとに把握に努めたが、薬の目的や副作用、用法や要領について理解が不十分なところもある。服薬時に誤薬が発生しないよう複数の職員での確認を行っている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の能力に応じた家事活動への参加を促している。また本人が好まれる嗜好品を可能な範囲で提供し喜んで頂いている。ボール遊び・塗り絵・三味線等の興味を持たれる事に随時参加して頂き楽しんで頂いている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍以降は外出は減少したが、5類移行後はドライブ・花見・家族との外出等に出かけられる方も増えて来ており随時支援している。		現在、感染症対策として積極的な日常の外出は行えていないが、園庭散歩や園庭の果樹の収穫、ドライブ、花見、家族との外出と生活拡充の機会が増えつつある。また、体操、創作活動、塗り絵等の余暇の充実を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	さくら	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	できる方には職員立ち合いのもと移動販売の買い物の際に支払いの支援を行っている。本人が日常的に金銭を所持する事は難しい為施設が管理している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人自らが電話をかけられる事は無いが、かかってきた電話に出て頂く支援は随時行っている。手紙を書かれる方もおられないが、本人の能力に応じて年賀状に名前を書いて頂く等できることを促している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音・光・色・広さ・温度等が不快に感じないよう随時環境整備に努めている。また共用の食堂ホールはテレビやソファを設置し生活感を感じて頂き、カレンダーや季節の花を飾る事で季節感を感じて頂いている。		家庭的な雰囲気の共用空間で調度や物品、装飾も季節感を取り入れて家庭的である。玄関で来訪者が新型コロナウイルス感染予防のための記録表を記入することになっている。環境整備や換気、空調の配慮も随時行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の食堂ホールにテレビとソファを2台ずつ設置し、気の合う方同士で過ごせたり独りになれる場所を提供している。テーブルや椅子の配置は随時検討している。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談し本人になじみのある物や必要な物を居室内に設置している。また本人の希望や状況に応じ居室内の環境整備を随時行っている。		使い慣れた家具や小物、写真など馴染みのあるものが設置されている。より家庭に近い環境で生活できるように職員が利用者と一緒に行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室やトイレの表示を工夫したり、利用者の状態に応じて居室内に手摺りを設置している。また移動がスムーズに行えるよう障害物を排除したり導線を整える等の環境整備を随時検討している。			